

『『ありがとう』という日本語にありがとう』

260113

『『ありがとう』という日本語にありがとう』 山本孝弘著

ひとりっ子の彼は、お母さんからおなかに妹ができたと聞いてとても喜んだ。妹の名前を考えたり、ぬいぐるみでおむつ替えの練習をしたりしてわくわくする日々を過ごした。「ご飯を食べたり、テレビを見たり、公園で遊んだり、今までずっと3人でやってきたことをこれからは4人でやるんだ」、そんなことを思いながら妹の誕生を楽しみにしていた。ある日のこと。お母さんがトレイですごく落ち込んだ様子で泣いていた。状況は分からなかったが、彼はその時、何となく「これからも3人かもしれない」と思ったという。

著者は本書で、彼の作文を引用した。

<ぼくのいもうと、ありがとう。おとうさん、おかあさん、ありがとう。いきていること、ありがとう。ぼくには、てんしのいもうとがいます。だいじなだいじないもうとがいます>

「ありがとう」の由来は「有り難し」。つまり、有ることが難しい。有り難しを、感謝という意味を持つ、ありがとうという日本語にした先人の崇高な感性に感謝したい、と著者は記す。